

令和3年度 市民憲章推進協議会 いただいた御意見

審議期間 : 令和3年4月28日(水)～5月12日(水)

審議参加者 : 協議会委員(15名), オブザーバー(2名)

【梶村会長】

推進テーマについてはコロナ禍での京都市の状況を踏まえた記述であり、異論はありません。

なお、実践目標・行動例の(3)について、「京都市再犯防止推進計画」が策定されたことを受けた記述を追加していただければと思います。犯罪等をした人が罪を償い社会の一員として暮らしていくことになる際には、市民みんなで見守り支えることで安心・安全な地域社会の実現につながるのではないのでしょうか。様々な理由で生きづらさを抱える方々をどれだけ地域で受け入れるのか、まさに京都の「地域力」・「市民力」が発揮されるべき時です。

【委員】

○ 基本的にいいと思います。以下は参考意見として記載します。来年度以降の検討材料にしてください。

京都市が新たに導入を検討されている「別荘税(仮称)」は、税込以上に、「京都で家をお持ちの方は、京都市内で暮らしてほしい」というメッセージを市内外に発信するという点で、意義があるものではないかと感じます。そうした新たな取組等も踏まえ、特に将来の京都市を担う子どもを育む若い世代も暮らしやすい京都市を目指そう、ということが推進テーマや実践目標に盛り込まれてもよいかもしれません。

○ 実践目標4「世界に誇る京都の文化や伝統を大切に守り伝えましょう。」について、昨年度までは行動例に「和装や京都の食文化に親しむ」と記載されていますが、「食文化」だけでなく「京・花街の文化」、「京の地蔵盆」、「京のきもの文化」、「京の菓子文化」、「京の年中行事」なども踏まえて、「京都の文化に親しむ」と表現されてはいかがでしょうか。

○ 実践目標4「世界に誇る京都の文化や伝統を大切に守り伝えましょう。」について、説明文の冒頭には、「世界文化自由都市宣言」とともに、国や地域を問わず、様々な人々と交流する中で、互いに尊重し合い、理解することについて述べられています。しかし、その段落に対応する行動例が入っていなかったため、行動例には、「多様な文化を受け入れる」という主旨の一文を追加してもよいのではないのでしょうか。

○ 実践目標4「世界に誇る京都の文化や伝統を大切に守り伝えましょう。」内には、京都

市立芸術大学の崇仁地域への移転についても触れられています。崇仁地区をはじめ周辺地域の在日コリアンの方々の文化も、今や京都の貴重な文化となりつつあると考えています。また、京都は、海外からの観光客や市外からの移住者も含め、多様な文化を尊重するという視点での行動例もあるといいのではと思います。

- 実践目標3「地域のつながりを大切にし、誰もがいきいきと安心安全に暮らせるまちをきずきましょう。」について、コロナ禍の今だからこそ、近隣住民、町内会等の地域の皆で考え、支え合っていくことが大切だと思います。自治・福祉・防犯・防災など、地域のつながりを考えながら、日頃の付き合いを大切にしていきたいです。

- 実践目標1「自然やまちの美観を守り、緑豊かな美しいまちにしましょう。」について、緑化の推進について触れられています。「東本願寺前の緑地と京都市道を一体的に活用する『市民緑地』を整備…」の箇所について、「市民待望」という表現をと追記してはいかがでしょうか。

- コロナ禍での行政の対応は非常に大変だと思っています。審議資料の記載内容についても特段修正の意見はありません。なお、感想として以下述べさせていただきます。

実践目標3「地域のつながりを大切にし、誰もがいきいきと安心安全に暮らせるまちをきずきましょう。」について、地域の結びつき維持する取組を継続していくことは大きな意義があると思っています。引き続き、感染症予防に配慮しながらではありますが、様々な取組を継続していければと思います。

実践目標5「旅行者との心の触れ合いを大切にし、京都ならではの「おもてなし」を実践しましょう。」について、ワクチン接種が進んでいきますので、国内旅行者、海外旅行者と順次増えていくことが予想されます。2年間自由に旅行に出かけられなかった期間が明けるということで、コロナ禍以前のいわゆる観光公害と言われた状況に戻ってしまう可能性も考えられます。そうならないような準備も必要かと思います。おそらく、これは来年度以降の推進目標にも影響してくると思います。

- コロナ禍という危機を共に乗り越え、新たな未来に向かって進んでいく願いが込められており、よい推進テーマだと思います。「実践目標」に関しても、すべての項目に「SDGs」の理念や「感染症拡大防止」の観点を意識された記載があり、広く市民に理解いただきやすいものになっていると思います。